

園の防災対策を見直すチェックリスト

避難訓練の実施

訓練の内容

- 自園の地域性をふまえ、地震、火事、水害などの災害を想定して計画する。対応を決めておく。
- 食事中、散歩中、水遊び中、早番・遅番の時間帯、園長不在時など、いろいろな時間帯や場面を設定して計画する。
- 子どもに身の安全の確保について具体的に教える(防災頭巾をかぶる、テーブルの下にもぐる、頭部を守るなど)。
- 火の始末について確認する(暖房器具、調理器具など)。
- 避難経路の確保について確認する(窓、戸を開けるなど)。
- 人数確認をその都度行う(トイレなど、見えにくいところに子どもがいないか、散歩中の点呼など)。
- 子どもに「お・か・し・も(押さない・駆けない・しゃべらない・戻らない)」をくり返し教える。
- 訓練実施後に職員全員で振り返り、見直し、次の計画に反映させる。
- 配慮の必要な子どもについて、具体的な対応を決めておく。

避難先・避難経路

- 自治体のハザードマップや防災マニュアルをよく読む。
- 避難先が適切か、子どもが落ち着けるスペースがあるか確認する。
- 避難先の園からの距離や所要時間を実際に歩いて確認する。
- 避難経路の安全性について確認する。

備蓄

- 子どもを保護者に引き渡すまで数日間ある可能性を想定し、備蓄リストを作成する。
- アレルギー対応食を備蓄する。
- 備蓄品の保管場所を考える(1階と2階に分ける、避難先にも置いておくなど)。

避難時の持ち出し品・避難袋の中身の見直し

- 必要な品のリストを作成する。
- だれが何を持ち出すか決めておく。
- 随時、中身を確認し、必要に応じて補充する。
- 子どもの靴の持ち出しについて決めておく。

保護者との確認

- 引き渡し訓練を行い、公共交通不通時や車が使えない時のお迎えの方法を考えておいてもらう。
- 緊急時の連絡方法を確認する。
- 引き取り代理人を確認する。
- 避難先を知らせておく。

地域との協力・連携

- 自治体の担当窓口などつながり、地域の情報を把握する。
- 地域ぐるみの防災対策・避難訓練を行う。
- 保育施設が避難場所となる場合、何ができるか考え、準備する。

